



学校だより

みつめ みがきあい みらいをひらく 南神の子

南神大寺小学校
3月号
令和6年2月29日



みなかん HP

小さな学校の大きな心をもった6年生

校長 岩田 和也

令和5年度も残すところ1か月となりました。梅の花も開花し、木々の芽も膨らみ始め、日一日と春へ向かって季節が進んでいることを感じます。子どもたちは、一年間の学習や生活を振り返り、自分の成長を自覚する大事な時期を迎えます。一人一人が一日一日を大切に、進学や進級へ向けての意欲を高めていくこと、そして、夢や希望を抱き、一步一步前進していこうとする心を成長させることを期待して、学年の終わりの日まで指導・支援し続けます。

さて、3月19日には、32名の卒業生が、南神大寺小学校の第50期卒業生として、中学校への希望を胸に巣立ちます。50期は、学校の中では、一番少ない子どもたちが在籍する学年です。学校も他校と比べても小さな学校でもあります。そうした中において、6年生がよりたくさんの下級生に対して気を配り、温かい声かけを続けていくことは、人一倍の頑張りが求められ、人知れず苦労もあったのではないかと思います。小さな学年ではありましたが、その分、一人一人が大きな心をもち続けてくれました。

この一年、学校は、そうした6年生の姿があったから、在校生一人一人も安心して友達と心を通わせることができたのだろうと感じます。3月には、たてわりお別れ会が開かれ、在校生は、もうすぐ卒業する6年生への感謝とお祝いの気持ちを伝え、6年生からは6年間の思い出とともに在校生に引き継ぐ思いや願い、中学校生活への夢や希望を伝え合う時間がもたれます。子どもたち相互の成長と今後への期待を共有できる機会でもあります。在校生からは、一人一人が記したメッセージカードを集め、寄せ書き綴りとして卒業する6年生にプレゼントが贈られます。在校生が記したメッセージカードには、「スマイル遠足のときに、やさしく声をかけてくれてありがとう。うれしかったです。」「いつもたよってばかりでごめんなさい。これからは見習ってがんばります。」「さようなら。ずっとわたしのことを忘れないでね。」…という心温まる言葉がたくさん綴られていました。

ある人は、「人は『ありがとう』の数だけ賢くなり、『ごめんなさい』の数だけ優しくなり、『さようなら』の数だけ愛を知る」のだと言っています。50期の卒業生は、在校生とのたくさんの関わりと、心の通い合いを通して、その数だけ大きく心を育てたのだと確信しています。

学校の伝統は、こうして子どもたちの思いと共に脈々と受け継がれ、積み上げられ、築かれていくものだと感じます。別れは寂しいことでもありますが、今は第50期の卒業生をたくさん「さようなら」の中で送り、卒業を迎えるこのときを、子どもたちがたくさんの愛を知ることができる温かい時間にしたいと思えます。卒業生の思いに込められるほどに教職員一同、保護者の皆様、地域の方々とともに心を通わせ、卒業を大いに祝いたいと切に願っています。